

へきけんニュース

ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学札幌校

北海道教育大学と連携するアラスカ大学教育学部と へき地教師教育に関する懇談を実施しました。

へき地・小規模校教育研究センター・センター員 小野 豪大

1 北海道教育大学の協定大学としてのアラスカ大学の教師教育

北海道教育大学はアラスカ大学と古くから協定大学として連携協力関係を発展させてきました。広大な北海道とアラスカは、極寒地帯・自然生態系の共通性・先住民族の存在・開拓社会で48州から離れていることなど、極めて共通する自然的・文化的・地理的条件を有しています。またアラスカは、いわゆるへき地・小規模校が大部分を占めており、北海道とアラスカは共通する部分が多くあります。そのため、北海道教育大学とアラスカ大学は、長年研究・教育活動において情報交換を継続しています。



「ここではすごいことが起きる」というUAF。教育学部へ向かうホールで。

2 アラスカ大学教育学部長・副総長らと懇談

2023年2月27日～3月8日の間、アラスカ大学フェアバンクス校（UAF）教育学部において、教育学部長及び副総長らと、アラスカのへき地の人材養成・教員養成及び教師教育カリキュラム等に関する意見交換を行いました。そこでは、両大学のおかれた特性やアラスカと北海道の共通性などをベースにして、へき地教育や教師教育の研究交流をさらに進めることになりました。参加者は、玉井康之センター長、川前あゆみ副センター長、境智洋センター員及び私の4名です。



Vinlove教育学部長（中央）との懇談。左は教育委員会元職員のCarlson氏。

3 アラスカ州政府の先住民族教育政策の推進と共生社会化に向けたアラスカ大学の取組

今回の研究交流の基盤としては、科学研究費助成事業「先駆的なアラスカ州政府の先住民族教育政策と共生社会化の発展条件に関する総合的研究」（研究代表：川前）及び「へき地小規模校における教材・教具支援を図るためのシステムの研究」（研究代表：境）という複合的な研究目的があり、UAF以外にフェアバンクス市教育委員会及び管轄する小中学校の視察も行いました。



複式・小規模校Salcha小学校の正面玄関。校舎には白樺のアートが映える。

4 これまでのアラスカ大学との学術研究交流とその継承

さらに詳しく北海道教育大学とアラスカ大学のつながりを見てみると、相互交流の協定締結は1989年に遡ります。30年に渡る研究交流や交換留学など短期・長期と様々なプログラムが実施され、玉井センター長も1995年に客員研究員としてUAFに滞在し、その前後に何度もアラスカ大学を訪問しています。また、川前副センター長も複数回、他の研究者と同行、アラスカのへき地・小規模校の視察を通して、編著『アラスカと北海道のへき地教育』（北樹出版、2016年）を記しています。さらに、境センター員も同著の一端を担い、とりわけ「サイエンス・キット」と言われる理科教具の応用に関して知見を重ねています。

こうした先人によって紹介されたアラスカのへき地教育や教師教育は、北海道のへき地・小規模校教育研究の発展に十分寄与するものであり、今後も大きな可能性を有しています。



キットの貸出、修理などを担う教育委員会 Hameister氏（左）。



ビーバーの生態を学ぶためのサイエンス・キット（教具ボックス）の中身。

5 アラスカ大学の教員養成カリキュラムの特徴：1年間の教育実習期間とそれを支える体制

UAF教育学部及びフェアバンクス市教育委員会との懇談から、日本の教員養成システムと比較して、アラスカ大学における教育実習期間が1年間（2学期）という長期間に設定され、さらに学校現場での実践をサポートするための各種講座（オンライン含む）を同時開講しているという特徴がありました。また、アラスカの学校現場は教育実習生に対して好意的で、現場教師にとって受入れは大切な教職経験あるいは研修と位置付ける教師教育的なとらえ方も印象的でした。



Melin教育長（左から2番目）との懇談。

こうした教員養成・教師教育の比較の観点からも、入手した資料分析などを進めながら更なる研究交流を重ねていきたいと考えています。

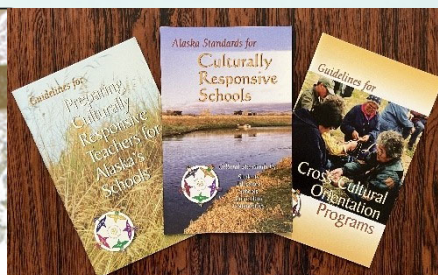
6 アラスカ大学と北海道教育大学の共同連携研究の課題と「アラスカ・スタンダード」の意義

今後の共同連携研究の課題としては、別表のような課題に取り組む予定です。「アラスカ・スタンダード」とは、全米各州で独自に制定された教職や教育内容に関する「基準」のアラスカ版のことです。特にアラスカには一般的なスタンダードを補完する文化的なスタンダードも作られており、先住民の文化に敬意を払い、その知的財産に学びながらアメリカ主流社会の教育内容と融合させながら教育実践を展開するユニークな教育実践が価値づけられています。こうした地域に根ざした教育の在り方が日本のへき地教育実践に示唆する事柄も多いでしょう。

令和6年度まで継続される研究の成果は最終年に書籍として出版する予定ですが、今後も「へき地教育研究」紀要や本紙「へきけんニュース」を通じて、へき地・小規模校教育研究に携わる方々とアラスカからの学びを共有していきたいと考えています。

<今後の共同連携研究の課題>

- ・アラスカ大学の教員養成カリキュラムとアラスカ州政府教育局の教員免許発行システムに関する調査
- ・アラスカ大学・アラスカ州政府教育局のへき地小規模校や地域に応じた先住民理解教育の指導方法に関する調査
- ・「アラスカ・スタンダード」と言われる教育上の行動様式について、教師、保護者、生徒、地域住民、先住民団体等各階層における展開と可能性に関する調査



（上）アラスカ州の教育における文化的なスタンダードに関する冊子。

（左）Effie Kokrine Charter School では中高校生を対象に「ムース（へらじか）の皮なめし」講座を実施。